

誰の自由にもならぬもの

作詞 J'Soul (浅羽一)

原始の世界で散りばめられた 創世神話に綴られる出会い達
神々ですら心を惑わし 星々ですら光を狂わす
性別を持たない天使の羽で想いを込めた恋文を記し
感情を持たない人形の手で愛する人に恋文を運ぶ
自分の事だけを見つめて欲しくて

遙か遠くの海の向こうから まだ見ぬ未来が雲を割り差し込む
太陽ですら季節を忘れ 月光ですら夜中に一人泣く
暗闇を持たない虹の欠片で想い溢れる恋文を彩り
停滞を持たない涼風に乗せて愛する空に恋文を運ぶ
自分の姿をとどめて欲しくて
振り向いて欲しい気持ちを誰も 思い通りに出来はしないけど
微笑んで欲しい気持ちはいつも 胸の扉を開けようとして
清めの水じゃ心まで洗えない 祈りの歌じゃ奇跡など起こらない
女神の像じゃ願いさえ叶わない 乾いた声じゃ想いさえ届かない
眠っただけじゃ夢でしか踊れない 虚しい恋じゃ何一つ残らない
だから誰もが真実を求めて そして誰もが唯一を求める

紀元前に埋められたミイラに 誰かが手向けた一輪の花が咲く
王様ですら身分を捨てて 歳月ですら分かってぬ永遠
言葉を持たない民は下手な絵で想い募った恋文を描き
布靴を持たない裸足を焼きながら愛する元へ恋文を運ぶ
自分の隣りで寄り添って欲しくて
望む全ての運命を誰も 手に入れられるはずもないけど
諦められない運命はいつも 蜃気楼でも逃したくない
■繰り返し

…救いの腕は誰一人抱かなくて 僕の腕では誰一人抱けなくて…
存在もせぬ幻想には頼らない

■繰り返し